

52)骨軟部良性腫瘍、生検術、転移性骨腫瘍、四肢の切断術をレジデントに指導できる (知、技)。

第二年次

53)外来診療においてセカンドオピニオンを求める患者に適切な説明ができる (知、技、態)。

54)上級医の指導のもとに進行した骨盤、脊椎腫瘍および単純な形成外科的再建法の術者ができる (技)。

55)複雑な再建を必要としない骨軟部悪性腫瘍の広範囲切除法を指導できる (技)。

56)他の領域の悪性腫瘍に関し整形外科医として必要な知識を指導できる (知、技)。

57) 特殊染色の基本的知識を修得する (知)。

58)遺伝子検査の基礎的知識を修得する (知)。

59)病理組織検査について臨床病理カンファランスで積極的に意見を述べられる (知、態)

61)まとまった症例数の検討による論文を発表する (知)。

62) 英語での学会発表に必要な知識を指導できる (知)。

整形外科 評価表 (レジデント/シニアレジデント) 名前:		3=よくできた 2=ある程度できようようになった 1=少しできた 0=まったくできなかつた		自己評価 指導医評価 指導医名 ()	自己評価<指導医評価=○ 自己評価>指導医評価=△ 自己評価と指導医評価が ともに3点=◎
レジデント 目標42項目					
第1年次					
指導のもとに以下の業務ができる。					
1	1)骨軟部腫瘍の問診ができる (知、技、態)。	3	2	1	0
2	2)骨軟部腫瘍の臨床所見、理学所見の診療録記載ができる (知、技)。	3	2	1	0
3	3)術前術後の全身管理ができる (知、技)。	3	2	1	0
4	4)SOAP方式で入院患者の診療録記載ができる (知、技)。	3	2	1	0
5	5)基本的な抗癌剤治療の投与方法、副作用について理解し患者にわかりやすく説明できる (知、技、態)。	3	2	1	0
6	6)集学的治療の概念の基本を理解し患者に説明できる (知、技、態)。	3	2	1	0
7	7)典型的な良悪性骨軟部腫瘍の診断ができる (知、技)。	3	2	1	0
8	8)典型的な転移性骨腫瘍の診断ができる (知、技)。	3	2	1	0
9	9)骨軟部腫瘍の病理切り出しができる (知、技)。	3	2	1	0
10	10)骨軟部腫瘍の典型例の病理所見を理解する (知、技)。	3	2	1	0
11	11)基本的画像診断の撮像法を理解し典型例の読影ができる (知、技)。	3	2	1	0
12	12)切除縁の基本的概念を理解する (知)。	3	2	1	0
13	13)カンファランスにおいて指導医とともに切除縁評価を行う (知、技)。	3	2	1	0
14	14)必要な理学療法を指示できる (知、技)。	3	2	1	0
15	15)MRI, CT scan, 血管造影など各種画像診断の読影法を理解する (知、技)。	3	2	1	0
16	16)原発性悪性腫瘍の手術において円滑に助手ができる (技、態)。 指導のもとに以下の手術の術者ができる (技)。	3	2	1	0
17	17)生検術	3	2	1	0
18	18)良性骨腫瘍手術	3	2	1	0
19	19)良性軟部腫瘍摘出術	3	2	1	0
20	20)四肢悪性腫瘍切断術	3	2	1	0
第2年次					
21	21)病棟業務において積極的に臨床研修医の指導を行う (知、技、態)。	3	2	1	0
22	22)指導のもとに外来診療を実施できる (知、技)。 指導のもとに以下の業務を実施できる (知、技)	3	2	1	0
23	23)穿刺細胞診	3	2	1	0
24	24)外来超音波検査	3	2	1	0

	指導のもとに、以下の手術の術者ができる (知、技)。			
25	25) デスモイド、GCTIS (PVS) など浸潤性の良性軟部腫瘍の広範囲切除術	3 2 1 0	3 2 1 0	
26	26) 骨巨細胞腫の手術	3 2 1 0	3 2 1 0	
27	27) 転移性骨腫瘍の広範囲切除術と再建	3 2 1 0	3 2 1 0	
28	28) 表在性の軟部肉腫の広範囲切除術。	3 2 1 0	3 2 1 0	
29	29) MRI, CT, 動脈造影など各種画像診断法の手法が実施できる (技)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
30	30) 典拠例のみならず非典拠例の画像所見を説明できる (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
31	31) 骨軟部腫瘍CPCで症例の提示を行える (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
32	32) 骨軟部肉腫外科研究会で英語による症例報告を行う (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
33	33) 補助療法による切除縁縮小の概念を理解し説明できる (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
	第3年次	3 2 1 0	3 2 1 0	
34	34) 病棟業務を指導医に準じて指導する (知、技、態)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
35	35) 外来診療を指導医に準じて指導する (知、技、態)	3 2 1 0	3 2 1 0	
	指導のもとに以下の手術の術者ができる (技)。			
36	36) 骨盤半軟術	3 2 1 0	3 2 1 0	
37	37) 再建を要さない深部発生の骨軟部悪性腫瘍の広範囲切除術	3 2 1 0	3 2 1 0	
38	38) 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会で発表を行う (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
39	39) 症例報告などの論文を発表する (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
40	40) 画像診断に関して下級レジデントを指導できる (知、技)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
41	41) 理学療法プログラムを処方できる (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
	総計	/126	/126	%
	42項目=126点満点	%	%	
	修得率			
	意欲、態度、協調性 5点満点			
	総合点100点満点中			

シニアレジデント 目標19項目

	第1年次			
1	43) 骨軟部腫瘍の外来診療を担当し必要な手技を指導できる (知、技、態)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
2	44) 転移性骨腫瘍の切除法再建法を指導できる (知、技、態)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
3	45) 良性腫瘍および非進行例の原発性悪性腫瘍の手術を指導できる (知、技、態)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
4	46) 骨軟部腫瘍の病理検査について広い知識を有する (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
5	47) 抗癌剤治療に関して広い知識を有し説明できる (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
6	48) 整形外科に関係する他の領域の悪性腫瘍について十分な知識を修得する (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	
7	49) 多施設の化学療法プロトコルについて説明できる (知)。	3 2 1 0	3 2 1 0	

8	50)MRI、CTscan、血管造影など各種画像診断を担当し、レジデントに手技を指導できる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
9	51)上級医の指導のもとに非進行の骨盤脊椎悪性腫瘍例の術者ができる (技)。 52)骨軟部良性腫瘍、生検術、転移性骨腫瘍、四肢の切断術をレジデントに指導できる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
10	53)外来診療においてセカンドオピニオンを求め患者に適切な説明ができる (知、技、態)。 54)上級医の指導のもとに進行した骨盤、脊椎腫瘍および単純な形成外科的再建法の術者ができる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
11	55)複雑な再建を必要としない骨軟部悪性腫瘍の広範囲切除法を指導できる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
12	56)他の領域の悪性腫瘍に関し整形外科医として必要な知識を指導できる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
13	57)特殊染色の基本的知識を修得する (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
14	58)遺伝子検査の基礎的知識を修得する (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
15	59)病理組織検査について臨床病理カンファランスで積極的に意見を述べられる (知、態)	3	2	1	0	3	2	1	0
16	61)まとまった症例数の検討による論文を発表する (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
17	62)英語での学会発表に必要な知識を指導できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
18	総計								
19	19項目=57点満点				/57				/57
	修得率				%				%
	意欲、態度、協調性 5点満点								
	総合点100点満点中								

<講評>

泌尿器科

泌尿器科レジデントカリキュラム

レジデント達成項目

対象：レジデント

期間：3年

GIO(General Instructional Objectives)

尿路性器腫瘍の病態を理解し、その患者における治療（手術、化学療法など）前後の全身状態や病勢を評価し、治療の支援ができる。

SBO(Specific Behavioral Objectives)

1. 直腸診により得られた前立腺の所見をわかりやすく記載できる（技）
2. 陰嚢内疾患を視診、触診によりある程度鑑別できる（技・知）
3. POS に基づいてカルテを記載できる（技・知）
4. 看護師や検査技師との連携によりスムーズに検査や処置ができる（態）
5. ヨード系造影剤の副作用について理解し的確に対処できる（技・知）
6. 腹部超音波検査を自ら施行し、腎や膀胱の評価ができる（技・知）
7. 経直腸超音波検査を自ら施行し、前立腺の評価ができる（技・知）
8. 逆行性尿道造影検査の手技に習熟している（技）
9. IP, UG などが読影できる（知）
10. 胸腹部 CT の読影ができる（知）
11. MRI により膀胱癌や前立腺癌の局在診断ができる（知）
12. 経直腸前立腺生検をある程度の精度と安全性を確保しつつ施行できる（技・知）
13. 前立腺生検の合併症について説明ができ、対処ができる（技・知）
14. 中心静脈ラインを確保できる（技）
15. 中心静脈ライン穿刺時の合併症を理解し、その予防および対処法を知っている（知）
16. 膀胱鏡ができる（技）
17. 尿閉や膀胱タンポナーデに適切に対処できる（技・知）
18. Obstructive uropathy の病態生理を理解している（知）
19. 逆行性腎盂造影ができる（技）

20. 経皮的腎瘻造設ができる (技)
21. 尿管ステントの挿入ができる (技)
22. 上級医の指導のもと TUR ができる (技)
23. 上級医とともに高位精巣摘除術ができる (技)
24. 上級医とともに骨盤リンパ節郭清ができる (技)
25. 経腰式腎摘除術、経腹式腎摘除術、前立腺全摘除術、膀胱全摘除術の第一または第二助手を勤めることができる (技・知)
26. 骨盤腔を含めた後腹膜腔の解剖を理解している (知)
27. 様々な所見をもとに尿路性器腫瘍の臨床病期診断ができる (知)
28. 入院受け持ち患者の現状を把握し、的確な症例提示ができる (技・知)
29. 尿路性器腫瘍における標準的化学療法や免疫療法を理解している (知)
30. 使用抗癌剤の至適用量や投与方法を理解している (知)
31. 各抗癌剤の副作用についての知識がある (知)
32. 化学療法の副作用を早期に発見し早期に適切な対処ができる (技・知)
33. 時と場合に応じた的確な精神的な支援ができる (態)
34. 癌性疼痛に対応できる (技・知・態)
35. インターフェロンの自己注射の指導ができる (技・知・態)
36. 自己導尿指導ができる (技・知・態)
37. 病理医の指導下に手術摘除標本の切り出しができる (技・知)
38. 各尿路性器腫瘍の代表的組織像についての知識がある (知)
39. 尿路性器腫瘍に関する up-to-date な情報の収集に努めている (知)

シニアレジデント達成項目

対象：シニアレジデント

期間：2年

GIO(General Instructional Objectives)

尿路性器腫瘍患者に最適な治療を提示し、それを実践できる。

SBO(Specific Behavioral Objectives)

- 4 0. 尿路性器腫瘍の治療に関する up-to-date な情報収集をしている。(知)
- 4 1. 副腎腫瘍に対する、診断方法につき理解し、診断計画がたてられる。
(知)
- 4 2. 副腎腫瘍の、手術適応を含めた治療計画がたてられる。(知)
- 4 3. 副腎腫瘍の、術前術後管理（内分泌補充療法等）を理解し実行できる。
(技・知)
- 4 4. 上級医の指導の下、副腎摘除の術者をつとめる。(技)
- 4 5. 腎腫瘍の画像診断ができる。(知)
- 4 6. 腎腫瘍の治療法につき理解し治療計画がたてられる。(知)
- 4 7. 腎腫瘍の術前術後管理ができる。(技・知)
- 4 8. 上級医の指導の下、静脈浸潤の無い腎腫瘍の手術、全摘、部分切除の術者をつとめることができる。(技)
- 4 9. 腎腫瘍の術後経過観察や再発時の治療計画がたてられる。(知)
- 5 0. インターフェロンや、IL2 の効果や副作用につき理解し治療計画をたて、副作用に対応できる。(知)
- 5 1. 脳転移の診断や、治療計画がたてられる。(知)
- 5 2. 尿路上皮腫瘍の特性につき理解し診断計画がたてられる。(知)
- 5 3. 尿路上皮腫瘍の特性につき理解し、病期や悪性度に基づき治療計画をたてられる。(知)
- 5 4. 尿管鏡検査ができる。(技)
- 5 5. 経尿道的手術の術者ができる。(技)
- 5 6. 閉鎖神経ブロックができる。(技)
- 5 7. 膀胱内注入療法の特性を理解し治療計画がたてられる。(知)

58. BCGの副作用につき理解し、対応ができる。(技・知)
59. 各種尿路変向術の方法につき理解し説明できる。(知)
60. 上級医の指導のもと膀胱全摘、尿路変向術の術者をつとめる。(技)
61. 上級医の指導のもと腎尿管全摘、尿管部分切除、膀胱尿管新吻合の術者をつとめる。(技)
62. 尿路上皮癌の全身化学療法につき理解し治療計画をたてられる。(知)
63. 前立腺癌の特性につき理解し、前立腺生検の適応を判断できる。(知)
64. 年齢や、病期、悪性度に基づき前立腺癌の治療計画をたてられる。(知)
65. 前立腺癌患者の無治療経過観察ができる。(知)
66. 各種内分泌治療の特性を理解し説明できる。(知)
67. 放射線治療の特性を理解し、治療計画に参加できる。(知)
68. 上級医の指導のもと前立腺全摘の術者をつとめる。(技)
69. 精巣腫瘍の特性を理解し診断計画がたてられる。(知)
70. 病期分類に基づいた治療計画がたてられる。(知)
71. 上級医の指導のもと後腹膜リンパ節廓清の術者をつとめる。(技)
72. 病理医の監督下に病理レポートの作成ができる。(技・知)
73. 悪性腫瘍患者や家族に対し適切な精神的支援ができる。(態)

(レジデント/シニアレジデント共通)

方略

病棟診療：1-11, 13-15, 17-20, 27-36, 43, 45-47, 49-54, 57-59, 62, 69, 70

外来診療：12, 13, 16, 17, 21, 41, 42, 45, 46, 49-54, 57-59, 62-67, 69, 70

手術：21-26, 44, 48, 54-56, 60, 61, 68, 71

泌尿器科検査当番 (IP, CT, TRUS, etc.)：4, 5, 8, 9

入院患者カンファレンス (毎週火・木)：9-11, 27-31, 41-43, 45-47, 49-53, 57-59, 62-67, 69, 70

外来レントゲンカンファレンス (毎週月)：9

抄読会 (毎週月)：29, 39, 40

病理標本切り出しおよび病理プレパラート検鏡 (毎週火)：37, 38, 72

泌尿器癌臨床病理カンファレンス (2月毎)：9-11, 28, 38, 45

文献検索：39, 40

学会参加：39, 40

Evaluation

SBO の各項目について、自己評価および指導医による評価を4段階で行う

泌尿器科 評価表

(レジデント/シニアレジデント) 名前:

レジデント 目標39項目	3=よくできた、 2=ある程度できようようになった 1=少しできた 0=まったくできなかつた		自己評価 指導医名 ()	差 (自己評価-指導医評価)
	自己評価	指導医評価		
1. 直腸診により得られた前立腺の所見をわかりやすく記載できる (技)	3	2	1	0
2. 陰嚢内疾患を視診、触診によりある程度鑑別できる (技・知)	3	2	1	0
3. POSに基づいてカルテを記載できる (技・知)	3	2	1	0
4. 看護師や検査技師との連携によりスムーズに検査や処置ができる (態)	3	2	1	0
5. ヨード造影剤の副作用について理解し的確に対処できる (技・知)	3	2	1	0
6. 腹部超音波検査を自ら施行し、腎や膀胱の評価ができる (技・知)	3	2	1	0
7. 経直腸超音波検査を自ら施行し、前立腺の評価ができる (技・知)	3	2	1	0
8. 逆行性尿道造影検査の手法に習熟している (技)	3	2	1	0
9. IP, UGなどが読影できる (知)	3	2	1	0
10. 胸部CTの読影ができる (知)	3	2	1	0
11. MRIにより膀胱癌や前立腺癌の局在診断ができる (知)	3	2	1	0
12. 経直腸前立腺生検をある程度の精度と安全性を確保しつつ施行できる (技・知)	3	2	1	0
13. 前立腺生検の合併症について説明ができ、対処ができる (技・知)	3	2	1	0
14. 中心静脈ラインを確保できる (技)	3	2	1	0
15. 中心静脈ライン穿刺時の合併症を理解し、その予防および対処法を知っている (知)	3	2	1	0
16. 膀胱鏡ができる (技)	3	2	1	0
17. 尿管や膀胱タンポナーデに適切に対処できる (技・知)	3	2	1	0
18. Obstructive uropathyの病態生理を理解している (知)	3	2	1	0
19. 逆行性腎盂造影ができる (技)	3	2	1	0
20. 経皮的腎盂造設ができる (技)	3	2	1	0
21. 尿管ステントの挿入ができる (技)	3	2	1	0
22. 上級医の指導のもとTURができる (技)	3	2	1	0
23. 上級医とともに高位精巣摘除術ができる (技)	3	2	1	0
24. 上級医とともに骨盤リンパ節郭清ができる (技)	3	2	1	0
25. 経腰式腎摘除術、経腹式腎摘除術、前立腺全摘除術、膀胱全摘除術の第一または第二助手を勤めることができる (技・知)	3	2	1	0
26. 骨盤腔を含めた後腹膜腔の解剖を理解している (知)	3	2	1	0

27.	様々な所見をもとに尿路性器腫瘍の臨床病期診断ができる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
28.	入院受け持ち患者の現状を把握し、的確な症例提示ができる (技・知)	3	2	1	0	3	2	1	0
29.	尿路性器腫瘍における標準的化学療法や免疫療法を理解している (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
30.	使用抗癌剤の至適用量や投与法を理解している (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
31.	各抗癌剤の副作用についての知識がある (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
32.	化学療法の副作用を早期に発見し早期に適切な対処ができる (技・知)	3	2	1	0	3	2	1	0
33.	時と場合に応じた的確な精神的な支援ができる (態)	3	2	1	0	3	2	1	0
34.	癌性疼痛に対応できる (技・知・態)	3	2	1	0	3	2	1	0
35.	インターフェロンの自己注射の指導ができる (技・知・態)	3	2	1	0	3	2	1	0
36.	自己導尿指導ができる (技・知・態)	3	2	1	0	3	2	1	0
37.	病理科の指導下に手術摘除標本の切り出しができる (技・知)	3	2	1	0	3	2	1	0
38.	各尿路性器腫瘍の代表的組織像についての知識がある (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
39.	尿路性器腫瘍に関するup-to-dateな情報の収集に努めている (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
総 計									
39項目=117点満点				/117				/117	
修得率				%				%	
意欲、態度、協調性5点満点									
総合点100点満点中									

シニアレジデント 目標34項目									
1	40. 尿路性器腫瘍の治療に関するup-to-dateな情報収集をしている。 (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
2	41. 副腎腫瘍に対する、診断方法につき理解し、診断計画がたてられる。 (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
3	42. 副腎腫瘍の、手術適応を含めた治療計画がたてられる。 (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
4	43. 副腎腫瘍の、術前術後管理 (内分泌補充療法等) を理解し実行できる。 (技・知)	3	2	1	0	3	2	1	0
5	44. 上級医の指導の下、副腎摘除の術者をとめる。 (技)	3	2	1	0	3	2	1	0
6	45. 腎腫瘍の画像診断ができる。 (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
7	46. 腎腫瘍の治療法につき理解し治療計画がたてられる。 (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
8	47. 腎腫瘍の術前術後管理ができる。 (技・知)	3	2	1	0	3	2	1	0
9	48. 上級医の指導の下、静脈浸潤の無い腎腫瘍の手術、全摘、部分切除の術者をとめること ができる。 (技)	3	2	1	0	3	2	1	0
10	49. 腎腫瘍の術後経過観察や再発時の治療計画がたてられる。 (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
11	50. インターフェロンや、IL2の効果や副作用につき理解し治療計画をたて、副作用に対応でき る。 (知)	3	2	1	0	3	2	1	0

12	5 1. 脳転移の診断や、治療計画がたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
13	5 2. 尿路上皮腫瘍の特性につき理解し診断計画がたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
14	5 3. 尿路上皮腫瘍の特性につき理解し、病期や悪性度に基づき治療計画をたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
15	5 4. 尿管鏡検査ができる。(技)	3 2 1 0	3 2 1 0
16	5 5. 経尿道的手術の術者ができる。(技)	3 2 1 0	3 2 1 0
17	5 6. 閉鎖神経ブロックができる。(技)	3 2 1 0	3 2 1 0
18	5 7. 膀胱内注入療法の特性を理解し治療計画がたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
19	5 8. BCGの副作用につき理解し、対応ができる。(技・知)	3 2 1 0	3 2 1 0
20	5 9. 各種尿路変向術の方法につき理解し説明できる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
21	6 0. 上級医の指導のもと膀胱全摘、尿路変向術の術者をつとめる。(技)	3 2 1 0	3 2 1 0
22	6 1. 上級医の指導のもと腎尿管全摘、尿管部分切除、膀胱尿管新物台の術者をつとめる。(技)	3 2 1 0	3 2 1 0
23	6 2. 尿路上皮癌の全身化学療法につき理解し治療計画をたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
24	6 3. 前立腺癌の特性につき理解し、前立腺生検の適応を判断できる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
25	6 4. 年齢や、病期、悪性度に基づき前立腺癌の治療計画をたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
26	6 5. 前立腺癌患者の無治療経過観察ができる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
27	6 6. 各種内分泌治療の特性を理解し説明できる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
28	6 7. 放射線治療の特性を理解し、治療計画に参加できる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
29	6 8. 上級医の指導のもと前立腺全摘の術者をつとめる。(技)	3 2 1 0	3 2 1 0
30	6 9. 精巣腫瘍の特性を理解し診断計画がたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
31	7 0. 病期分類に基づいた治療計画がたてられる。(知)	3 2 1 0	3 2 1 0
32	7 1. 上級医の指導のもと後腹膜リンパ節筋清の術者をつとめる。(技)	3 2 1 0	3 2 1 0
33	7 2. 病理医の監督下に病理レポートの作成ができる。(技・知)	3 2 1 0	3 2 1 0
34	7 3. 悪性腫瘍患者や家族に対し適切な精神的支援ができる。(態)	3 2 1 0	3 2 1 0
総 計			
34項目=102点満点		/102	/102
修得率		%	%
意欲、態度、協調性 5 点満点			
総合点 100 点満点中			

<講 評>

放射線科

診断部

放射線診断科レジデント研修プログラム

放射線診断科はカリキュラム上、レジデントとシニアレジデントの区別は行わない。

目的 general instructional objective(GIO)

癌専門病院における画像診断を総合的に担うために、各種画像診断の基本となる原理や手技を修得すると共に、検査を正しく適応するための態度や知識を修得することを目的に作成された。

カリキュラム specific behavioral objective(SBO)

1. CTの原理、手技、読影を修得する。
 - 1-1 CTの原理を説明できる。(知)
 - 1-2 ヨード造影剤の薬理動態、副作用を理解し、適応の判断と副作用に対する対応ができる。(知・技)
 - 1-3 腹部CTの適応、手技、読影を修得する。(知・技)
 - 1-4 胸部CTの適応、手技、読影を修得する。(知・技)
 - 1-5 頭部・頭頸部CTの適応、手技、読影を修得する。(知・技)
 - 1-6 その他(筋骨格系、乳線等)のCTの適応、手技、読影を修得する。(知・技)
 - 1-7 CTガイド下生検の適応を理解し、手技を修得する。(知・技)
2. MRIの原理、手技、読影を修得する。
 - 2-1 MRIの原理を説明できる。(知)
 - 2-2 各種MRI造影剤の薬理動態、副作用を理解し、適応の判断と副作用に対する対応ができる。(知・技)
 - 2-3 腹部MRIの適応、手技、読影を修得する。(知・技)
 - 2-4 胸部MRIの適応、手技、読影を修得する。(知・技)
 - 2-5 頭部・頭頸部MRIの適応、手技、読影を修得する。(知・技)
3. USの原理、手技、読影を修得する。
 - 3-1 USの原理と適応を説明できる。(知)
 - 3-2 腹部USの適応を理解し、手技を修得する。(知・技)
 - 3-3 乳線、表在USの適応を理解し、手技を修得する。(知・技)
 - 3-4 超音波造影剤の原理と適応を理解する。(知)
 - 3-5 USガイド下生検の手技を修得する。(技)
4. その他の画像診断(単純X線撮影、血管造影、マンモグラフィーなど)の適応と基本的所見を理解し、説明できる。(知)
5. 放射線科診断医に求められる基本的な態度と判断力を身につけ、他の医療メンバーと協調する。(態)
6. 患者の病態に合った適切な検査手順を判断し、各科からの相談に応じられるようになる。(知)(態)
7. 自らが行った診断について客観的に評価し、その後の診療にフィードバックする態度を身につける。(態)
8. 各臓器別検討会に出席し、発言する。(態)
9. 必要な文献を検索できる。(技)

10. 臨床研究について理解し、議論ができる。(知) (態)
11. 臨床研究の結果を学会発表したり論文投稿できる。(知・技) (態)
12. 放射線科診断専門医試験を受験する。(知) (態)

評価

1. カリキュラムの1から8については各項目について、指導医と研修医自身がそれぞれ相対評価(4段階)にて、適宜および研修終了時に評価する。
2. カリキュラムの12については、受験の有無と合否にて評価する。

20	6. 患者の病態に合った適切な検査手順を判断し、各科からの相談に応じられるようになる。 (知) (態)	3 2 1 0	3 2 1 0	
21	7. 自らが行った診断について客観的に評価し、その後の診療にフィードバックする態度を身につける。 (態)	3 2 1 0	3 2 1 0	
22	8. 各臓器別検討会に出席し、発言する。 (態)	3 2 1 0	3 2 1 0	
23	9. 必要な文献を検索できる。 (技)	3 2 1 0	3 2 1 0	
24	10. 臨床研究について理解し、議論ができる。 (知) (態)	3 2 1 0	3 2 1 0	
25	11. 臨床研究の結果を学会発表したり論文投稿できる。 (知・技) (態)	3 2 1 0	3 2 1 0	
26	12. 放射線科診断専門医試験を受験する。 (知) (態)	3 2 1 0	3 2 1 0	
総 計				
	26項目=78点満点	/78	/78	
	修得率	%	%	
	意欲、態度、協調性5点満点			
	総合点100点満点中			

<講 評>

放射線科

治療部

放射線治療科レジデント カリキュラム

レジデント：放射線腫瘍学を専攻する卒後 2-5 年目の医師が該当する。部長・医長・フェローの指導のもとに、放射線腫瘍医として臓器別外来の総合的がん診療に参加し、標準治療が確立されている一般的ながん患者を診察する。日本医学放射線学会専門医の到達目標に準拠し、放射線腫瘍学の基礎と標準治療を修得させる。

シニアレジデント（がん専門修練医に相当）：放射線腫瘍学を専攻する卒後 6-8 年目の医師が該当する。一般例に関しては部長・医長の直接指導なしに、臓器別外来で患者を診察し、放射線治療技師と正確な放射線治療が実施しながら臨床研修が積めるように育成する。放射線腫瘍学だけでなく広く臨床腫瘍学を学び、Cancer board にて特殊例について検討する。部長・医長の指導のもとに、放射線腫瘍学の応用を修得し、特殊例に対する先駆的な放射線治療を担当する。放射線治療結果を解析し放射線腫瘍学論文を作成する。

レジデント GIO (general instructional objective) :

臨床腫瘍学全般に関する知識、および、日本医学放射線学会専門医の到達目標を習得し、放射線腫瘍医に求められる基本的な臨床能力を身につける。

レジデント SBO (Specific behavioral objectives)

- 1-1. 基本的診察法を指導医と共に実施し、患者の治療中および治療後の診察を行う。(知・技・態)
- 1-2. 基本的検査法（血液生化学的検査 細胞診・病理組織検査 内視鏡検査 超音波検査 単純・造影X線検査 X線CT検査 MRI検査 核医学検査）を指導医と共に実施あるいは指示し、結果を解釈する。(知・技)
- 1-3. 基本的治療法（療養指導 薬物治療 輸液・輸血）を指導医と共に実施する。(知・技)
- 1-4. 患者・家族の要望と心理的側面の把握、プライバシーの保護、インフォームドコンセントに配慮した面接技法を学び、指導医と共に患者・家族と良好な人間関係を確立する。(知・技・態)
- 1-5. 臨床腫瘍学における外科療法・化学療法・免疫療法・遺伝子治療・緩和医療の特徴、適応を知り、腫瘍学に関して指導医と共に他科医師と十分に討議でき、また必要に応じて専門医に診察を依頼する。(知・技・態)
- 1-6. 以下の放射線治療の適応と役割を理解し、指導医と共に放射線治療を実施する。(知・技)
 - 1) 根治照射と姑息対症照射を区別できる。(知・技)
 - 2) 放射線治療の予後因子の解析ができる。(知・技)